

緩和ケア部

1. スタッフ

部長（准教授）	丹波嘉一郎
医員（講師）	岡島 美朗（兼） 井上荘一郎（兼）
	（病院助教）鈴木 英雄（兼） 楡木恵実子（兼）
	（臨床助教）渡辺 秀紀（兼）
看護師（兼）	1名
臨床心理士	1名
薬剤師（兼）	2名
医療ソーシャルワーカー（兼）	1名
管理栄養士（兼）	1名
作業療法士（兼）	1名
歯科衛生士（兼）	1名

2. 緩和ケア部の特徴

当部は、地域がん拠点病院の認可をにらみ、平成18年10月に発足した。当初から行っていた、緩和ケアチームによる一般病棟でのコンサルトと緩和ケア外来に加え、平成19年5月に緩和ケア病棟が開棟し、症状コントロール、レスパイト、エンドオブライフケアを行っている。また、在宅との連携も積極的に行っている。

緩和ケアは、

- 1) 疼痛、呼吸困難、悪心嘔吐その他の症状のコントロール
- 2) 心理社会的、スピリチュアルな面での対応
- 3) 最適な療養場所の検討

が大切であり、その目的は、進行して治癒の望めない疾患を持った患者様とそのご家族のQOLの維持である。

なお、緩和ケアの領域にも、平成21年4月1日から、日本緩和医療学会の緩和医療専門医制度が始まる。当院も丹波が暫定指導医として認められたため、認定施設なり、2年間の研修で専門医の取得が可能となっている。

3. 業務内容と実績

上記のスタッフ構成により、専任医1、他は兼任の多職種参加のチームでコンサルトを行っている。診療報酬を得るためのスタッフ構成（専任医師1、専任医師1、専任看護師1、専任薬剤師1）とは大きく異なっている。電子カルテと電子メールの活用しながら、緩和ケア病棟の入院患者のカンファランスを毎週火曜日

午後、入院コンサルトと外来患者のカンファランスを毎週木曜日午後に行っている。

1) 緩和ケア病棟

平成19年度に比し、入院数は134名（12.2名/月）から平成20年度は181名（15.1名/月）と大幅に増加した。一方、死亡退院は、110名（10.0名/月）から141名（11.8/月）と、それほど伸びていない。その理由は、地域連携による在宅療養で過ごされる方が増加したため、死亡退院の割合が87.3%から79.7%と大きく減ったからである。自宅へ退院したのが延べ31名だったが、そのうち自宅で看取りを行ったのは7名で、多くは再入院の後、緩和ケア病棟で死亡している。

症状コントロールはかなりなされているが、終末期の苦痛のコントロールのために、昨年度は38.1%が鎮静を受けて最期の時期を過ごしていたが、今年度は32.6%に減少しており、鎮静を受けずに最期を迎えられる方が増えている。

なお、死亡退院に際しては、約4割を緩和ケア病棟へ移る前に担当していた当該科の当直医に看取っていただいている。

2) 入院コンサルト

平成20年4月から134名の入院コンサルトがあった。緩和ケア病棟を中心とした療養場所の検討、症状コントロール、心理面の対応を行っているが、心理面の対応のコンサルトが激増している。

3) 緩和ケア外来

医師だけでなく、外来においても、臨床心理士、薬剤師、看護師、MSWとともに多職種で他科外来からの紹介患者を当該科と併診している。緩和ケア病棟を中心とした療養場所の検討、症状コントロール、心理面の対応を行っている。平成20年度は145名の院内の外来コンサルトと、23名の他院からの紹介に対応した。

入院コンサルトや緩和ケア外来を通じて、16名が在宅医による往診へと療養を切り替えており、エンドオブライフの在宅療養を積極的に進めている。

4. その他

今年度は、学外講師を招聘しての講演会を1回、がんプロフェッショナル養成に伴う緩和ケア講義を5回、緩和ケアの知識の普及に努めた。

今後の課題として、(1) 緩和ケアを専門とする医療職の養成、(2) 緩和ケアの基礎知識、技術の啓発(3) 緩和ケア管理料の取れるチームを確立して院内連携の

強化(4) 地域連携の強化 (5) 緩和ケアボランティアの養成などが挙げられる。

緩和ケア部 2008年度12ヶ月間の実績

A. 緩和ケア病棟

①入院

入院数 181名 平均年齢63.3±11.4歳

男102名 女79名

(1) 月別

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	小計
人	12	16	20	11	14	15	18	9	21	15	16	14	181
転棟	6	7	10	6	9	7	10	2	8	10	11	8	94
外来	5	8	10	4	4	6	4	4	11	4	5	5	70
他院	1	1	0	1	1	2	4	3	2	1	0	1	17

(2) 診療科別 (重複あり)

科名	症例数	科名	症例数
臨床腫瘍科	70	皮膚科	3
外科	36	放射線	3
婦人科	21	総合診療部	2
呼吸器内科	19	血液科	2
消化器内科	11	神経内科	1
耳鼻咽喉科	8	アレルイ科	1
泌尿器科	7	腎臓内科	1
呼吸器外科	3	内分泌	1

②退院(転科)数 平均在院日数 25.0±24.7日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	小計
人	13	11	18	13	13	14	17	15	16	16	16	16	178
死亡	10	9	15	11	11	8	13	14	12	13	13	13	142
在宅	2	2	3	1	2	4	4	1	4	2	3	3	31
転院	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
転科	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3

(3) 看取りのDr

看取り医	患者数	%
緩和ケア	83	62.9
外科	20	15.2
内科	23	17.4
婦人科	7	5.3
耳鼻咽喉科	4	3.0
泌尿器科	2	1.5
呼吸器外科	2	1.5
皮膚科	1	0.8
総計	142	100.0

(4) 鎮静の割合 33.1 %

鎮静開始から死亡まで

平均3日7時間40分±3日10時間15分

B. 緩和ケアコンサルト

総件数 298件 平均年齢63.1±12.7歳

男155名 女143名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	小計
外来	8	9	13	16	11	12	14	7	7	11	10	11	129
入院	11	17	12	12	15	8	20	5	10	14	10	11	145
院外	0	2	1	2	1	3	1	4	3	4	1	2	24
小計	19	28	26	30	27	23	35	16	20	29	21	24	298

依頼元 診療科別内訳 (重複あり)

科名	症例数	科名	症例数
臨床腫瘍科	88	皮膚科	4
外科	70	脳神経外科	4
呼吸器内科	48	精神科	3
婦人科	29	救急部	2
消化器内科	16	放射線	1
泌尿器科	11	アレルイ科	1
耳鼻咽喉科	7	腎臓内科	1
血液科	7	形成外科	1
総合診療部	6	整形外科	1
口腔外科	5	他院から	14
呼吸器外科	4		

予後

予後	症例数
死亡	206
外来通院中	46
中断	20
緩和ケア病棟入院中	11
転医	9
緩和ケア病棟から退院	4
他科入院中	2
総計	298